



常盤公園白鳥の湖

昭和32年遠くオランダ・ドイツから50羽のコブ白鳥を輸入し、その後もアルゼンチンのクロエリ白鳥4羽、南米のカモ白鳥1羽、オーストラリアの黒鳥2羽を輸入放養しましたが、自然の美しい環境のなかで、毎日訪れられるたくさんの人の愛情に満たされ、見まもられてつぎつぎとかわいいヒナも誕生し、現在白鳥黒鳥あわせて500羽余になり、松の緑を映した青々とした静かな湖面を三々五々遊泳している優雅な姿は、名曲「白鳥の湖」を想わせ全く夢のようです。

また、昭和42年、インドのカルカッタから輸入した「モモイロペリカン」10羽が放養され独得のお食事作法や魚獲りの共同戦術を披露し、みなさんの大喝采をいただいております。また、時折り空高く舞うペリカンの姿は何とも優雅で雄大そのものであります。

宇部市 石炭記念館



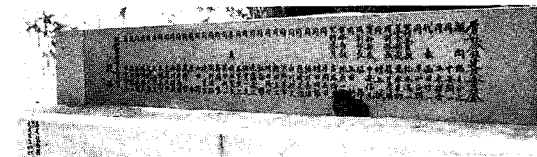
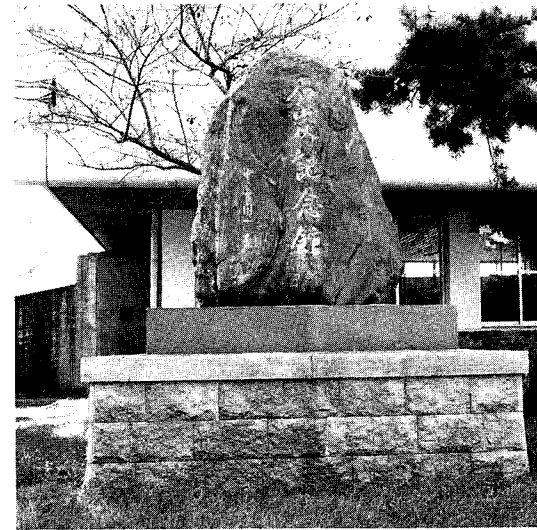
石炭記念館運営委員会

(山口県宇部市常盤公園内)

石炭記念館について

本館は宇部炭発祥の地である常盤湖畔に建設し石炭のもたらした多大の恩恵に感謝すると共に幾多の貴重な文献機材を整備し、その歩みを永く後の世に伝えようと県・市及び石炭関係者をはじめ広く市民の総力を挙げての寄付金によって、日本で初めての石炭記念館の建設に着工、昭和44年11月1日完工、さらに翌45年11月1日にはモデル炭坑を併設した。

本館の象徴である櫓は、宇部興産株式会社東見初炭坑で閉山に至るまで活躍した、立坑櫓を移設し、更にエレベーターを設置して展望台としたもので、建物は鉄筋コンクリート



造2階建、延面積748.64平方メートル、モデル炭坑220平方メートル、展望台の高さは地上37メートル、海拔65メートルである。

総経費約1億円、山口炭田の石炭鉱業発展の推移及びこれに関連する3,000点を越える資料、機材、文献等を収集展示している。

宇部の石炭産業の起源は約300年前であり、現在までの出炭量は約1億4千万トンに達した。

この間南蛮車の発明や蒸杵の製作など独得な工夫を重ね、技術の進歩とともに海底炭坑開発にも他に例をみない躍進をとげた。

しかしながら地下に埋蔵された石炭は有限であり、この点に着目した先人は早くから石炭の恩恵を蓄積し、宇部炭の乾溜による窒素肥料の製造、低カロリー炭からコスト安の火力発電の開発等あらゆる努力と創意をかさね、化学工業を中心に日本有数の近代産業都としての基盤を築き上げ、産炭地としての疲弊をまぬがれることが出来た。

かつては家庭用、塩田用、工業用等エネルギー源の主役を果たして来た石炭もいまや原子力も加わろうとする現況にあって、山口炭田の殆んどが閉山のやむなきに至った。

過去300年の石炭開発の跡を物語るこの石炭記念館によって、人間の創意工夫と努力の過程を認識され、未来の豊かな人間社会建設の資となれば幸である。

宇部民謡「南蛮音頭」

(一) ハーア、ー

南ば押せ／＼押しやこそ上がる

揚る五平太のヤットコセ 立坑掘りヨ

後山、先山オマエハ番子かギツコラサ

揚る五平太のヤットコセ 立坑掘りヨ

(二) ハーア、ー

南蛮、南蛮はお先祖様の

あれは炭捲くヤットコセ 置き土産ヨ

後山、先山オマエハ 番子かギツコラサ

あれは炭捲く ヤットコセ置き土産ヨ

(三) ハーア、ー

花じゃつばみじや押せ／＼南ば

枝も栄えりやヤットコセ葉も繁るヨ

後山、先山オマエハ番子かギツコラサ

枝も栄えりやヤットコセ葉も繁るヨ

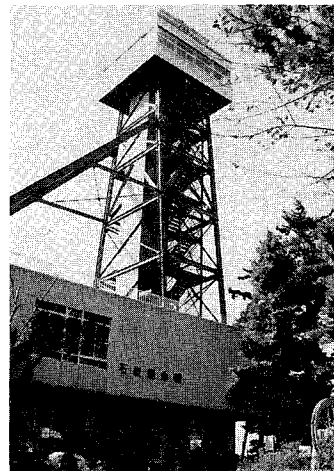
(四) ハーア、ー

わしも若い時 緑が浜で

男泣かせたヤットコセ 南蛮押しヨ

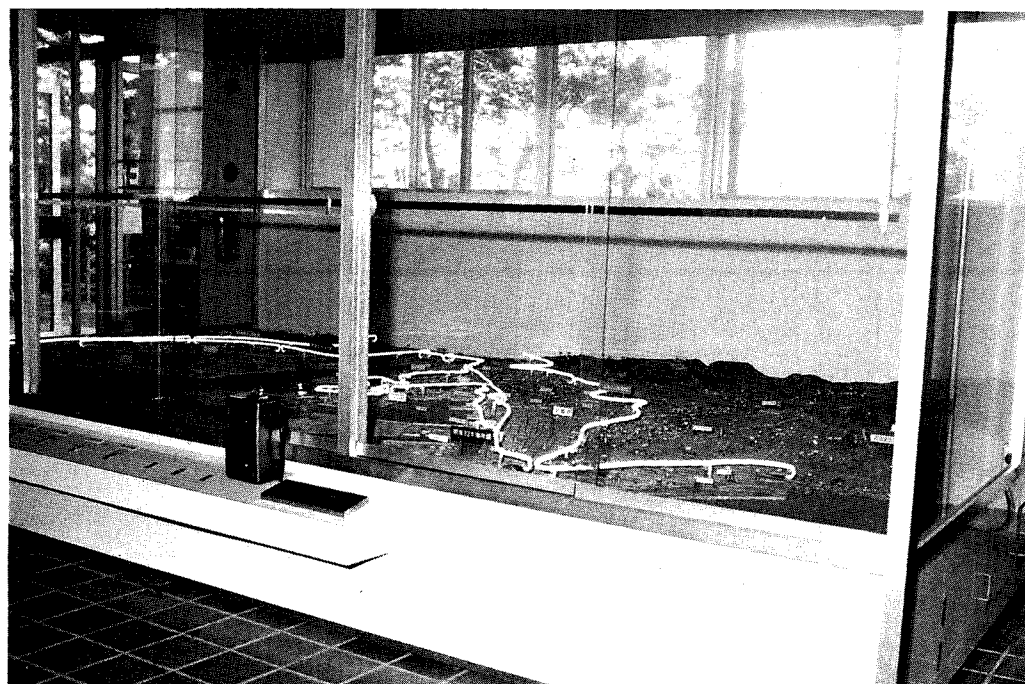
後山、先山オマエハ 番子かギツコラサ

男泣かせたヤットコセ 南蛮押しヨ



【石炭記念館】

永年にわたり東見初炭坑で活躍した立坑櫓を移設して展望台とした。



宇部市内及び炭坑分布状況図

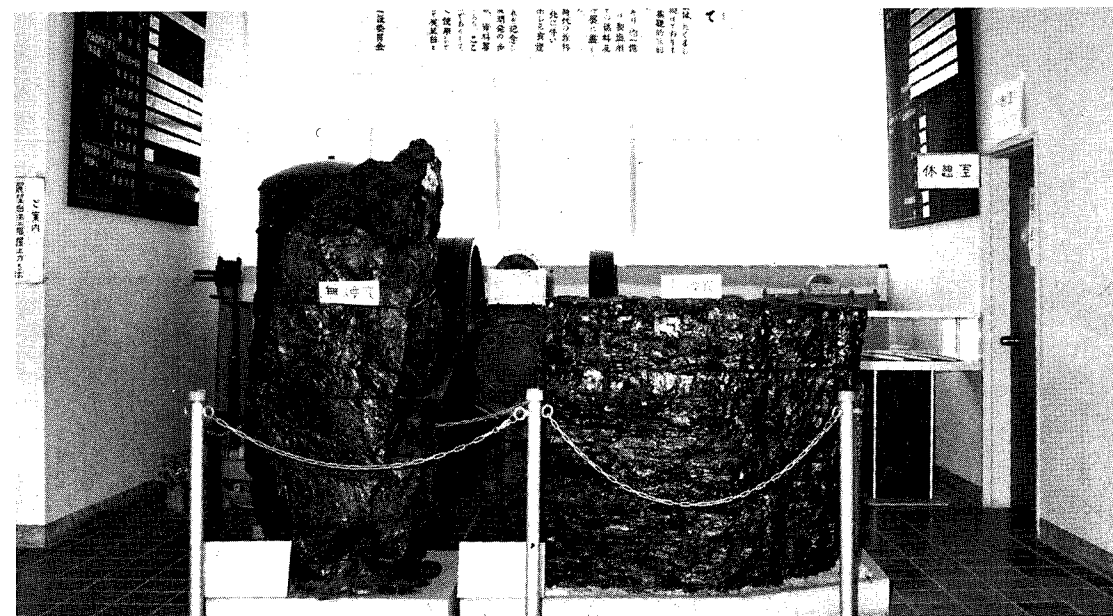
宇部市は石炭資源に恵まれて今日の発展を見たのであるが、海岸線等を中心に、この模型図によって説明する。

宇部市は遠く元禄時代の昔、今から約 300 年前は青線のところが海岸線であった。丁度その頃市内の常盤池の中から石炭が発見され、その後次第に炭坑が盛んになり、一方掘り出された廃土で海岸が埋め立てられ、明治 32 年頃には緑線のところまで海岸線が広がった。

石炭産業の発展が基盤となって大正 10 年には村から一躍市制が施かれ、その後も着々と隆昌の一途を辿り、鉄工・セメント・化学工業等も大いに盛んになり、昭和 12 年の海水域は赤線のところまで拡張せられたのである。

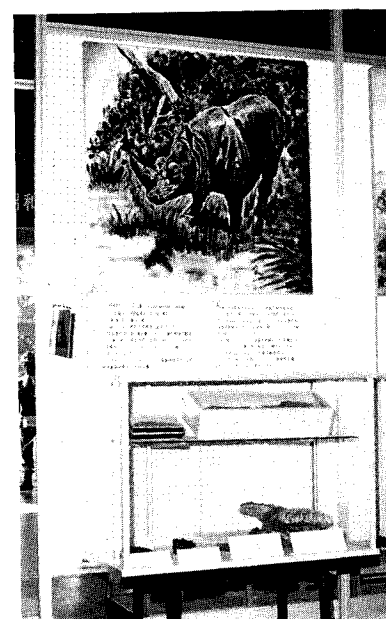
第 2 次大戦後から炭坑の数は次第に増加して、多い時には 90 坑が数えられ、出炭量も年産 400 万トンを超えるようになった。模型図上の青・赤・黄の豆電球は炭坑分布の状況を示したのである。

昭和 42 年 12 月、宇部市の石炭 300 年の歴史は遂に終りを遂げたが、この間にあった炭坑の数は実に 300 坑に及んでいる。瀬戸内海に面し、立地条件にも恵まれ、昭和 52 年 12 月 1 日現在の宇部市は面積 207 平方キロメートル、戸数 53,000 戸、人口 166,000 人、緑と花の工業都をキャッチフレーズに新しい街づくりが進められ、今後更に大きな飛躍が期待されている。



無煙炭
カロリー 6,370 重量 650 kg

有煙炭
カロリー 5,850 重量 1,000 kg



宇部鉱業所沖の山炭坑「さいの臼歯」の化石

地質年代 新生代、第 3 紀中世
今から 2,500 万年前のものと推定される。



沖見初炭坑産「東洋象の上顎の臼歯」の化石

地質年代 第 4 紀、洪積世初期
今から 200 万年前のものと推定される。

モデル炭坑



モデル炭坑

300年の歴史をもつ宇部炭田で採掘した炭層は、一重石層・大派層・五段層・三尺層・二重石層・袴腰層の6層である。

このモデル炭坑は採炭現場を中心に入気坑道・排気坑道を再現したもので、入気坑道入口のむしわくは地下4紀層を掘り下げる際、流出する土砂や湧水を防止するため明治19年宇部炭田で考案された。翌20年に始めて蒸気機械が使われ排水や捲揚げ通気等の施設も容易になり従って能率も倍加した

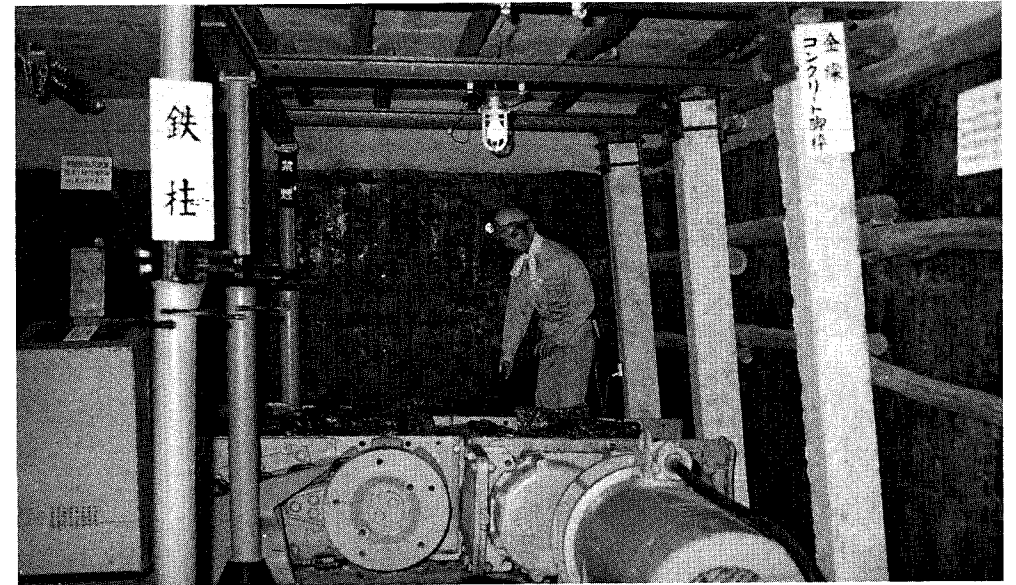
たのである。

また、大正の初期から電気機械が坑内で使用され、大きな蒸気管は小さいケーブル線に変わり採炭方法もツルハシから機械採炭となり深部の採掘も可能となった。

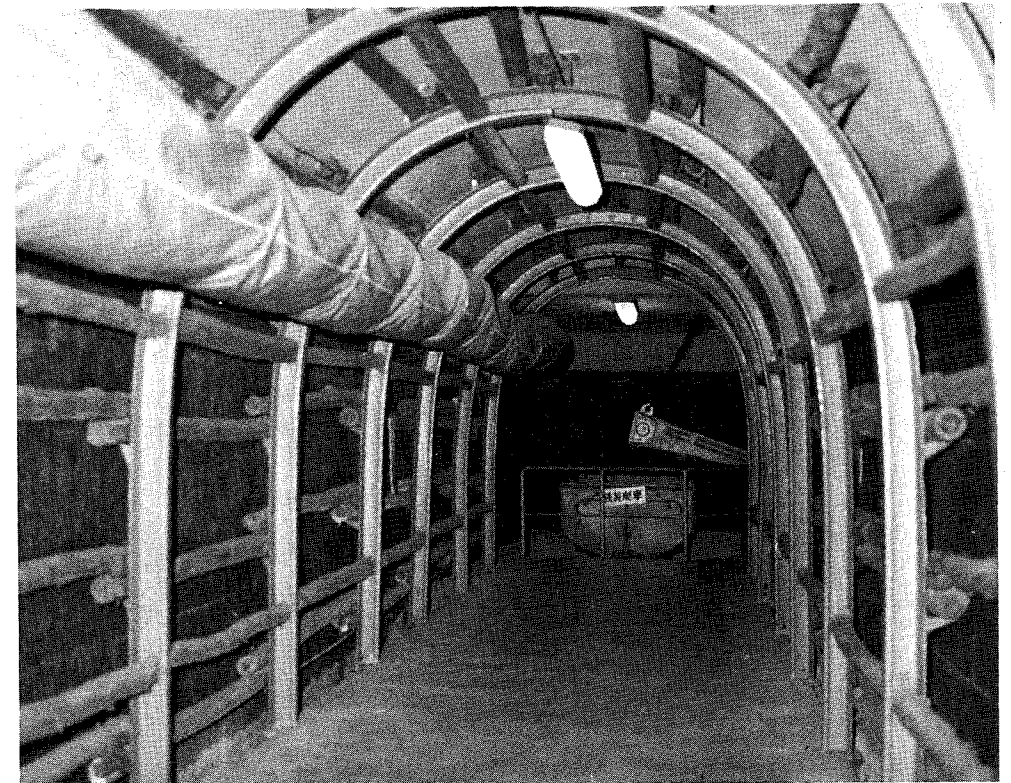
煉瓦巻坑道は明治・大正の時代まだコンクリート巻坑道の開発されない頃盛んに使用されたのである。

昭和の初年、金枠コンクリート脚の枠が考案され、同じ頃アーチ金枠やコンクリート巻坑道も採用された。ルーフボルト坑道は昭和20年頃アメリカで考案された天井支持方法で比較的地質の良い箇所用にいられたのである。採炭切羽面は最大延長120m位であるがモデル炭坑ではこれを20mに短縮したものである。

昭和24年鉄柱カッペが宇部炭田にも使用され一部では水圧鉄柱も用いられた。この採炭機はドイツで開発されたライスハーケンホーベルで、毎分18mの速度で炭壁を切削する。またパンツァーコンベアーは40Kの電動機3台を連結してハーベルを牽引すると共に、運炭能力は毎時200トン、なおここに表わした炭壁は宇部炭田の大派層で炭丈け180cmをモデルにしたものである。

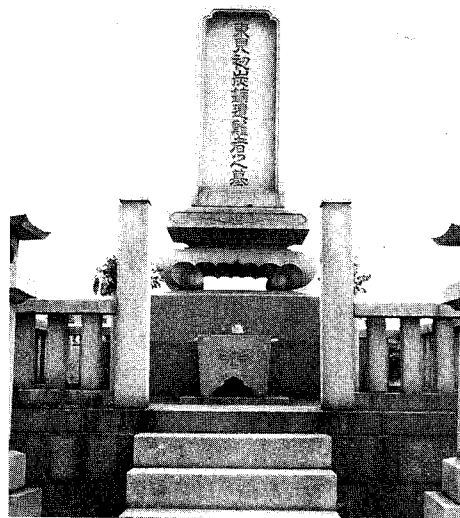


モデル炭坑内 採炭現場（鉄柱カッペ・コンベアー）



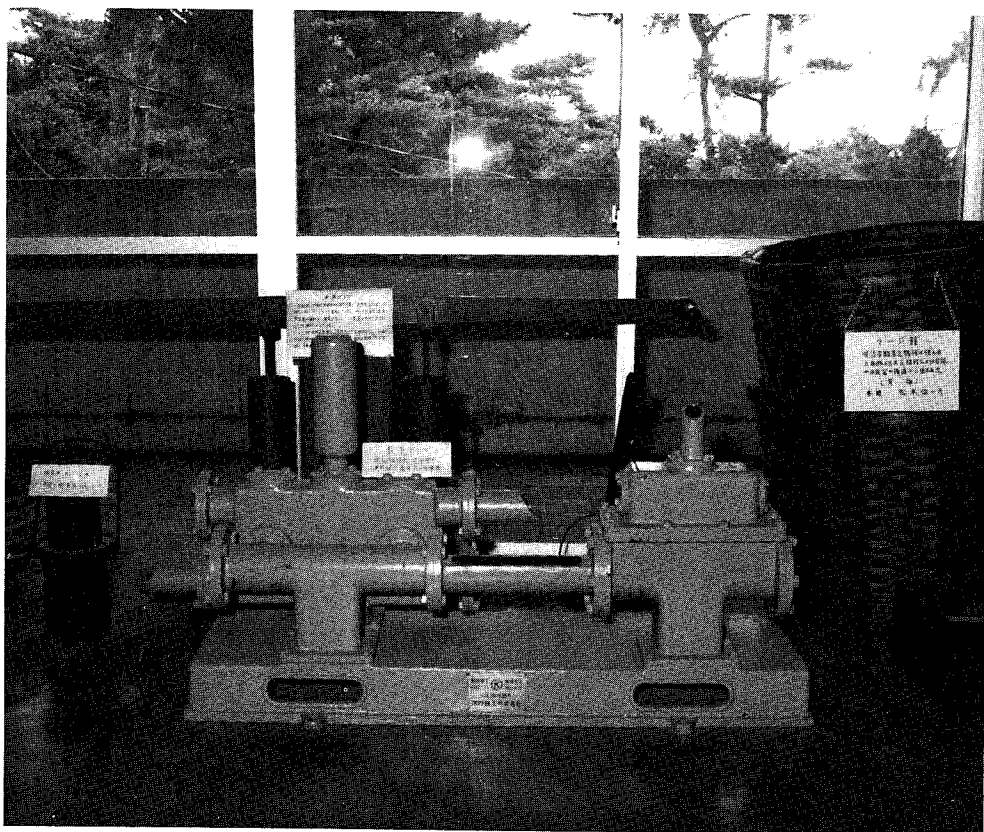
モデル炭坑内 アーチ型金枠坑道

東見初炭坑遭難者の墓



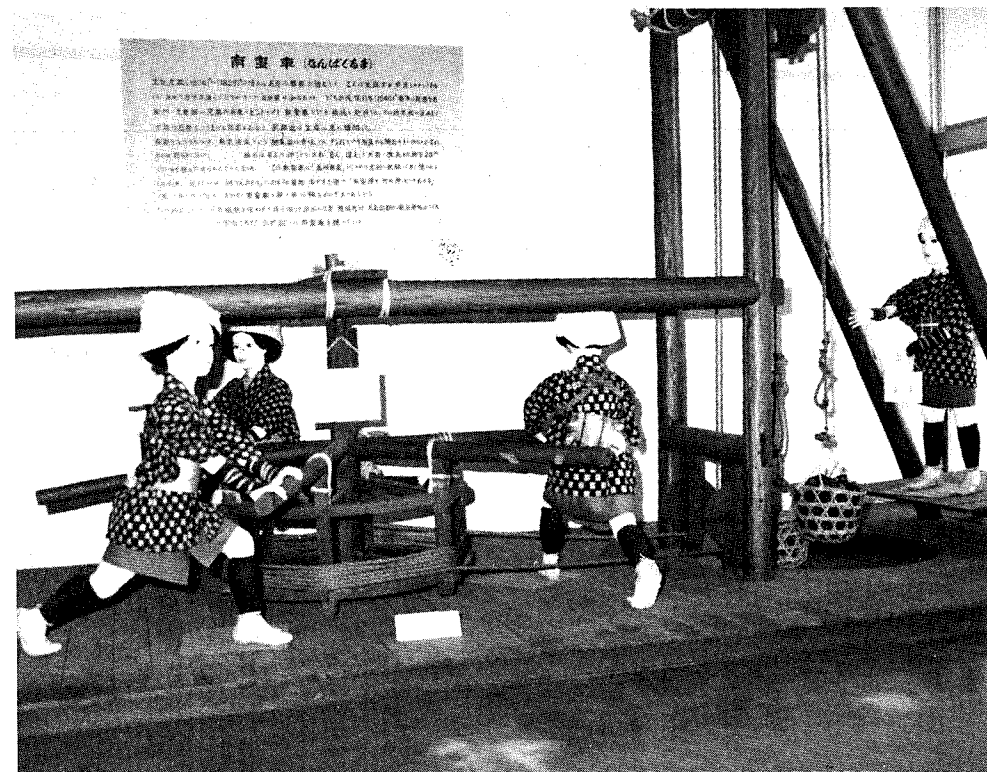
大正4年4月12日、大派層右一号斜海底下72mの地点から海水が浸入し、2時間余にして全坑水没、最大湧水量1,400 m³/分入坑者数603人中235人が殉職した。宇部炭田史上最大の事故である。

宇部石炭支局調では明治25年から昭和45年まで炭坑の災害で死亡者1,241名、重軽傷者60,102名となっている。(第2次大戦前後は資料散逸のため算入せず)



蒸気ポンプ模型

蒸気ポンプは明治の中頃から、大正の初期まで坑内排水用として使用されていた。シリンダー径6吋から25吋という大型のものも使われた。

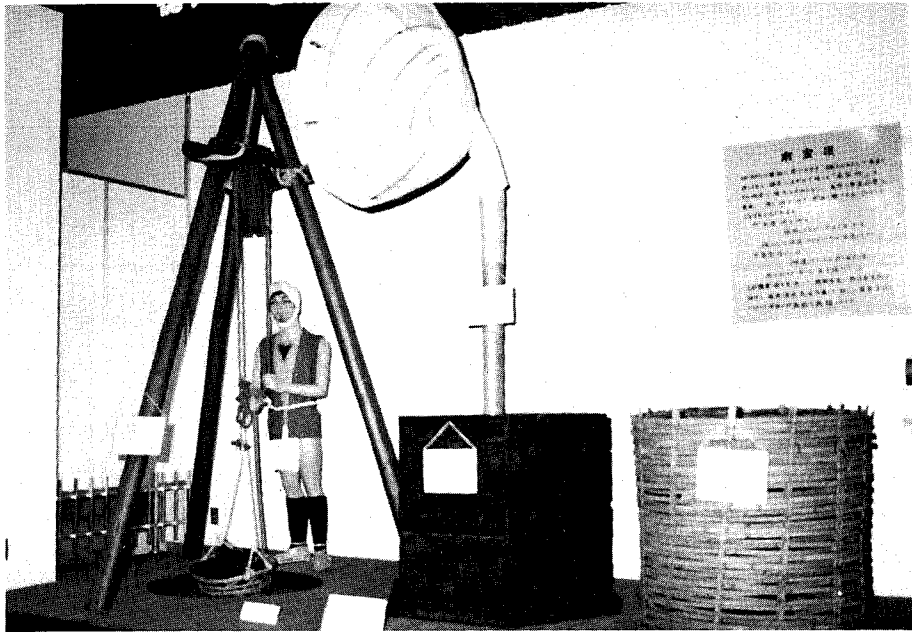


南 蛮 車 (なんばぐるま)

天保11年宇部市内亀浦の住人向田九十郎、七郎エ門兄弟が糸引車からヒントを得て発案したのが南蛮車である。

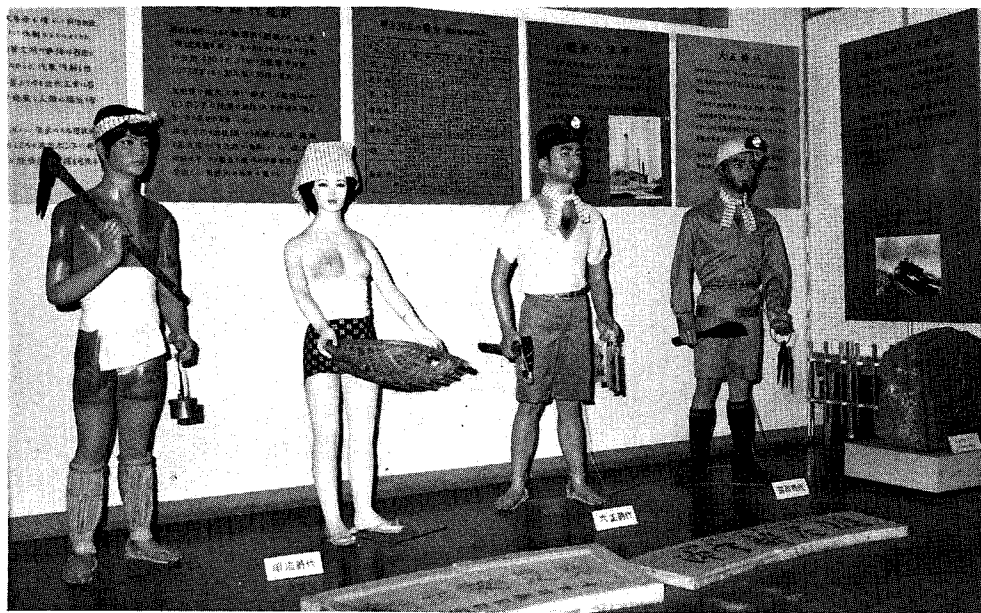
元来、南蛮という名はその昔、南蛮渡来の頃、外国船に使われている船具の名であるが何故、南蛮車と名づけたか明らかでない。その後種々改良され6人、8人、10人南蛮と作られ、地下20m位まで立坑を掘り下げることが出来るようになった。このため市内全域に亘って炭坑が開発され「石炭の宇部」と呼ばれ、塩田用並びに家庭用炭として県外にまで売り出された。また、この南蛮車は長州南蛮といわれ九州の炭坑にも使用された。

娘達が姉さんかむりで、かすりの着物、赤たすき姿で“南蛮押せ押せ、押しゃこそ上がる……”と美声の唄に合わせて南蛮車を押す姿はまことに当時は粋なものであったという。明治20年頃から蒸気機械が使われ、石炭の捲揚げや揚水等も人力から機械に変わって、明治30年頃には市内の大、小炭坑は90坑を数えた。また大正の初期から電気機器も使われ能率も倍加されたが小炭坑では昭和30年頃までこの南蛮車が使われていた。



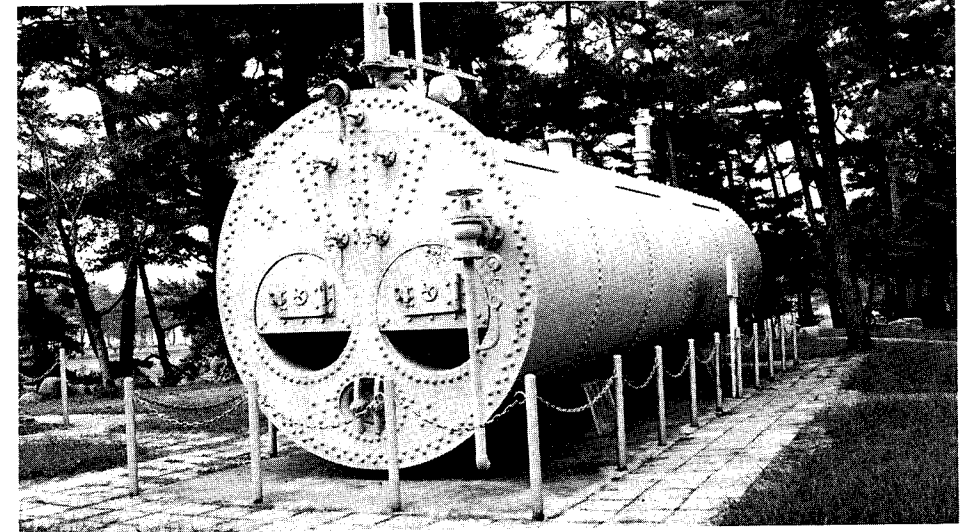
かぐり

元禄時代から天保11年頃まで、南蛮車が発明されるまで“かぐり”。といって3本の木柱を組み立て、木車をつり下げ藁縄で石炭をつりあげていた。



炭坑坑内夫風俗の移りかわり

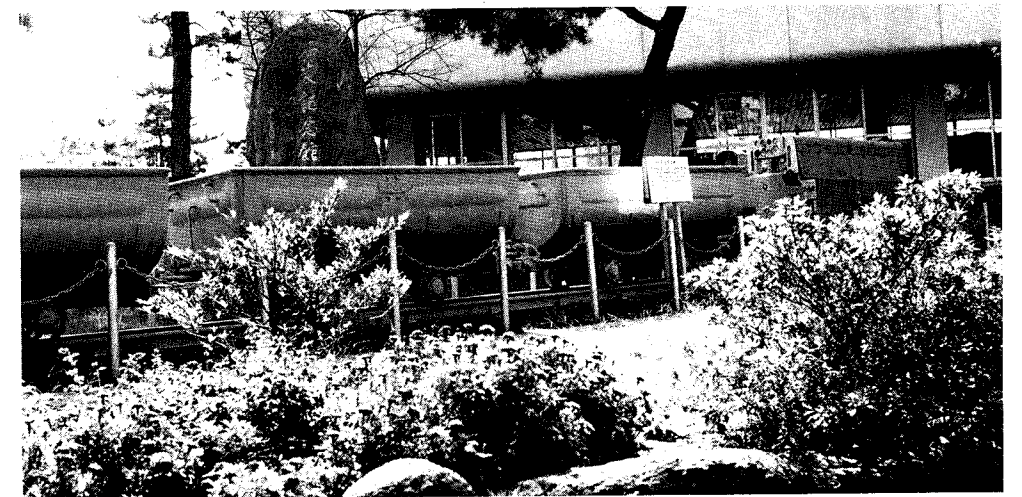
明治時代の坑内作業場では男女とも裸で作業していた。
昭和4年、婦女子の入坑は禁止された。



ランカシャーボイラー

重 量 18トン
長 さ 8 m85
直 径 2 m12
圧 力 7 kg/cm^2

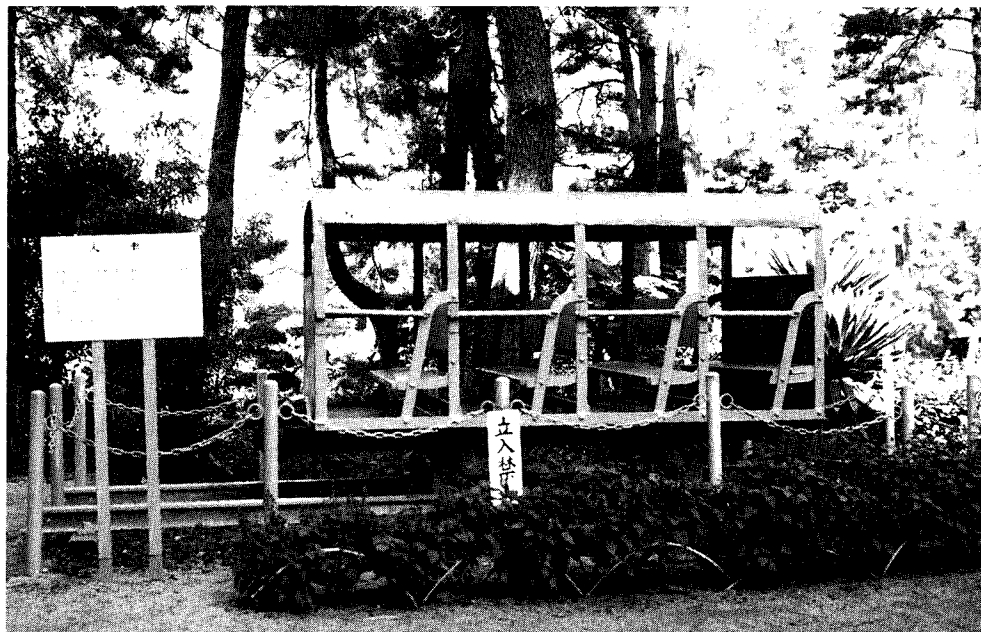
明治の中頃から大正・昭和にかけて炭坑の蒸気機械の動力源として使用された。
なお電気に代った以後も病院や事務所の暖房用等に昭和40年頃まで使用された。



坑内石炭列車

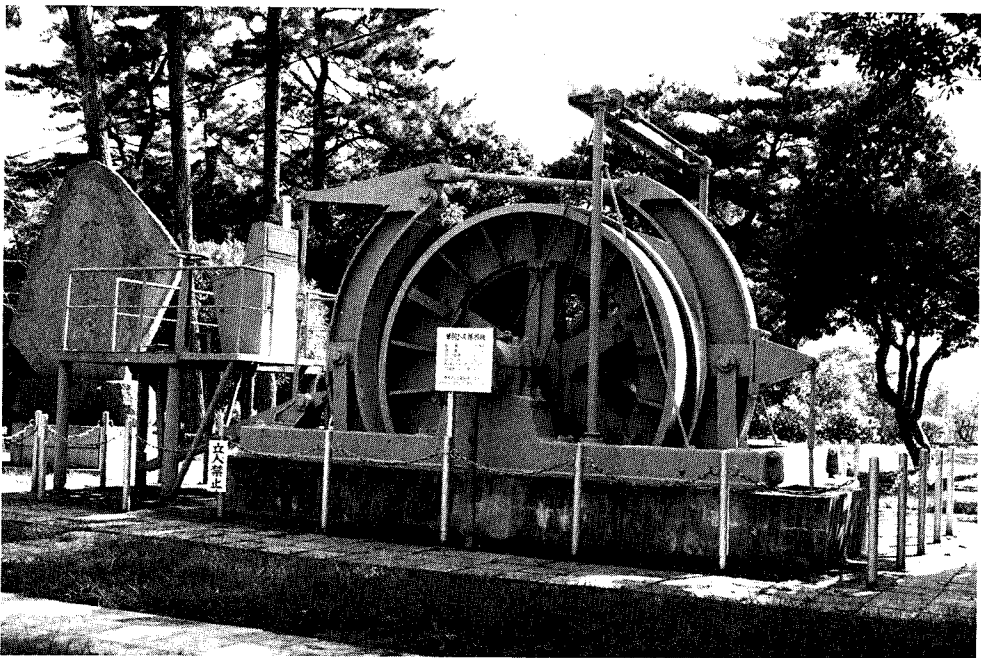
軌 条 巾 610 mm
軌条規格 30 kg/m

坑内で掘り出された石炭は2トン鉄製炭車に積み込まれ6トンディーゼル機関車で20連を牽引して運搬される。



人 車

坑内水平坑道で使用されたもの。定員 8 名。時速 10 km で運行された。



捲 揚 機

300 馬力 単胴コース捲 ロープ速度 180 m／分 ロープ径 30 mm

傾斜 22 度の場合、牽引函数 2 トン炭車 3 函、空車 7 函

自 明治 43 年
至 昭和 46 年 山口炭田の出炭概況表

出 炭				
年 度	有 煙 炭	無 煙 炭	計	炭 坑 数
明治 43 年	392,464	72,778	465,242	4 8
明治 45 年	666,956	65,697	732,653	4 6
大正 5 年	793,709	71,034	864,743	3 6
大正 10 年	1,376,128	89,617	1,465,745	3 4
大正 15 年	1,550,998	183,376	1,738,374	2 8
昭和 5 年	1,594,228	204,772	1,799,000	3 0
昭和 10 年	2,475,751	264,249	2,740,000	3 4
昭和 15 年	4,276,660	513,310	4,789,970	6 5
昭和 20 年	1,344,484	171,015	1,515,499	2 0
昭和 25 年	2,158,602	383,704	2,542,306	6 7
昭和 30 年	2,207,740	735,937	2,943,677	6 3
昭和 35 年	2,161,899	978,429	3,140,327	4 6
昭和 40 年	980,712	1,148,787	2,129,499	1 1
昭和 45 年	————	652,328	652,328	5
昭和 46 年	————	153,000	153,000	2

(注) 出炭最高は昭和 15 年 4,789,970 トン

炭坑数最高は、昭和 27 年 98 炭坑である。

展示資料品目

1 階展示場

品 名	数量	備 考
1. 大明下層炭	1 ケ	無煙塊炭 650 kg
2. 沖ノ山五段炭	1 ケ	有煙塊炭 1000 kg
3. ケーブルプラグ	1 ケ	キャップタイヤー
4. グリット抵抗器	1 台	
5. 50 HP コンプレッサー	1 式	レシーバー・モーター付
6. 試錐ポンプ	1 台	
7. 配電函 (300 A)	1 台	
8. 試錐機	1 台	回転式スピンドル型 150 m 迄試錐可能
9. 水力採炭モニター	1 式	ノズル径 18 mm
10. コールカッター	1 台	ジブカッター頭部のみ
11. ジャンボ	1 台	軌道を含む
12. ドリフター	2 台	
13. ロッカーショベル	1 台	軌道を含む
14. 2 m ² 鉄製炭車	1 台	〃
15. 中間トラフ	2 枚	V S 型
16. 鉄製台車	1 台	軌道を含む
17. コンベヤーチェン	1 連	
18. モール杵	1 本	30 kg レール
19. 鉄梁	1 本	〃
20. 6 〃ディーゼルロコ	1 台	軌道を含む
21. グリップ	1 ケ	エンドレス用
22. ジムクロー	1 ケ	15 kg レール用
23. 矢弦	1 ケ	2 尺径
24. 木製炭車	1 台	軌道を含む
25. 道中車	1 ケ	
26. 木製台車	1 台	軌道を含む

品 名	数量	備 考
27. ギャードモーター	1 台	5 HP
28. ホイスト巻	1 台	
29. エンドレス巻	1 台	20 HP
30. コース巻	1 台	10 HP
31. リタンローラー	3 ケ	
32. キャリヤローラー	3 ケ	
33. フートバルブ	1 ケ	
34. ヒューガルポンプ	1 台	20 HP
35. ブレードレスポンプ	1 台	
36. プランジャーポンプ	1 台	
37. 真空ポンプ	1 台	
38. カラックバルブ	1 ケ	200 mm
39. タービンポンプ	1 台	30 HP
40. ストレーナー	1 台	
41. スリースバルブ	1 ケ	100 mm
42. 〃	1 ケ	150 mm
43. 〃	1 ケ	160 mm
44. 〃	1 ケ	200 mm
45. 超高压パイプ	1 本	2 1/2 吋
46. 水力採炭用 高压パイプ	1 本	100 mm
47. 〃	1 本	150 mm
48. 〃	1 本	200 mm
49. サクシオンホース	1 本	竹製てぼ付
50. 自吸ポンプ	1 台	
51. グラウトポンプ	1 台	
52. 中塊用クラッシャー	1 台	

2 階展示場

品 名	数量	備 考
53. ターボファン	1 台	
54. プロペラファン	1 台	
55. 高圧バルブ	1 ケ	
56. ナイロン風管	1 本	400 ㎜× 10 m
57. パネル	1 枚	説明文
58. "	2 枚	大嶺図面
59. "	2 枚	大嶺記録板
60. 宇部炭鉱分布模型	1 ケ	
61. 写真	103枚	パネル 15 枚
62. スパナ	5 ケ	
63. ボール盤	1 ケ	
64. 丁字管	1 ケ	
65. ベンド管	1 ケ	
66. セクトリンク高圧パイプ	1 ケ	4 B
67. "	1 ケ	6 B
68. "	1 ケ	8 B
69. 小野田職業相談所看板	1 枚	
70. 五ツ段塊炭	1 ケ	700 kg
71. 雇用促進事業団広島支部宇部支所看板	2 枚	
72. D 5 1 写真パネル	3 枚	
73. "	1 枚	
74. 竹製テボ	1 ケ	
75. 単胴捲上機	1 式	300 HP
小 計	192点	

品 名	数量	備 考
1. 大嶺炭田植物化石	15 ケ	
2. 宇部サイの臼歯	2 ケ	複製
3. 日本サイの上顎	2 ケ	"
4. 東洋象の上顎臼歯	1 ケ	"
5. 鯨骨化石	2 ケ	
6. 七甲炭	3 ケ	
7. 松浜炭鉱からの化石	2 ケ	
8. 沖宇部炭鉱からの化石	1 ケ	
9. 珪化木	1 ケ	長さ 1600 ㎜直径 300 ㎜
10. 宇部炭田岩石標本	11 点	
11. 宇部炭田動物化石	5 点	
12. 上総堀用矢先	1 ケ	錐
13. メタルクラウン	1 ケ	76 ㎜
14. 平型錐	1 ケ	
15. 二段式クロスビット	1 ケ	
16. 偏平クラウン	1 ケ	
17. ショットクラウン	1 ケ	
18. ショットボール	1 包	
19. ボーリングのコマ	1 本	箱入
20. 硬質砂岩のコア	2 本	
21. ボーリングシングルコアチューブ	1 本	
22. ボーリングコア 46 ㎜コアチューブ	3 本	
23. ボーリングコア-花崗岩	2 ケ	
24. 宇部炭田貝化石他	10 ケ	
25. 宇部炭田一重石化石	3 ケ	
26. 宇部炭田動物化石	11 ケ	

品 名	数量	備 考
27. 宇部炭田犀の獣骨化石	22 ケ	細片
28. 鉱石	22 ケ	ビン詰
29. タコつぼ	1 ケ	
30. 一重石化石	4 ケ	
31. 宇部沖基盤構造模型	1 台	
32. 宇部炭田標準柱状図模型	1 台	
33. 山陽無煙鉱業所概況模型	1 台	
34. 南蛮車台芯	1 ケ	
35. 石炭採掘用木鋏	1 ケ	
36. コサギ	1 ケ	
37. 南蛮綱	1 本	
38. 天地車	2 ケ	
39. 百貫秤	1 ケ	
40. フイゴ	3 ケ	
41. じょれん	1 ケ	
42. ケージカゴ	2 ケ	(大・小)
43. 南蛮車模型	1 式	1/2 大
44. 箱尺	1 ケ	間尺法
45. 竹巻尺	1 ケ	50 m
46. スチール巻尺	1 ケ	50 m
47. ハイギングコンパス	1 台	
48. クリノメーター	1 ケ	
49. トランシット	2 台	
50. レベル	1 台	
51. 重錐	1 ケ	立坑芯出用
52. 海軍炭坑マーク	1 ケ	

品 名	数量	備 考
53. 手押ポンプ	1 台	
54. 古坑木	1 ケ	
55. がんづめ	3 ケ	
56. ほり	1 ケ	
57. 粘土ほり	1 ケ	
58. 石炭用カンテキ	1 ケ	
59. かに化石	3 ケ	
60. 東見初斜坑入口看板	1 ケ	
61. 沖宇部炭坑斜坑入口看板	1 ケ	
62. かき板	2 ケ	
63. ヨキ	1 本	
64. ぼんこし	2 本	
65. ツルハシ	7 本	
66. 一重石スラ	3 ケ	ソリ
67. 間鋸	3 本	
68. 立金	4 本	
69. 割	1 ケ	
70. カンテラ	11 ケ	
71. とうしみ皿	2 ケ	
72. キャップランプ	6 ケ	
73. ウルフ安全灯	2 ケ	
74. 弁当入れ	1 ケ	
75. マイト槌	2 ケ	
76. 30 発掛電池発破器	1 ケ	
77. 発破器	2 ケ	
78. 矢立	1 ケ	

品名	数量	備考
79. マッチ入れ	1ケ	
80. タバコ入れ	1ケ	
81. 水入れ	1ケ	
82. 水筒に使った陶器	1ケ	
83. 導火線	1ケ	
84. 雷管口締器	1ケ	
85. ドイツ安全灯	1ケ	
86. ドイツ炭坑マーク	1ケ	
87. 導爆線	1ケ	
88. 6号工業雷管見本	1ケ	
89. 紅梅ダイナマイト	3ケ	
90. インゼクターポンプ	1台	
91. ポンプランナー	1ケ	100 HP
92. ガイドベン	1ケ	100 HP
93. ピニオン	1ケ	ベークライト製
94. "	1ケ	鉄製
95. "	1ケ	牛皮
96. ポンプランナー	1ケ	50 HP
97. ガイドベン	1ケ	50 HP
98. スリースバルブ	1ケ	50 ㍑
99. バルブ	1ケ	
100. 木製ワッシャ	4ケ	
101. 鉄製ワッシャ	1ケ	
102. ゴムワッシャ	2ケ	
103. グリップ	2ケ	
104. 棹取カギ	8ケ	

品名	数量	備考
105. 棹取グリシメ	1ケ	
106. 警鐘	1ケ	
107. 棹取笛	1ケ	
108. 棹取五寸	1ケ	
109. 防爆スイッチ	1ケ	
110. 竹製信号用スイッチ	1ケ	
111. 棹取の手皮（左右）	各1ケ	
112. ワイヤロープ	2本	40 ㍑
113. "	2本	30 ㍑
114. "	1本	16 ㍑
115. レール	1本	50 kg
116. "	1本	30 kg
117. "	1本	22 kg
118. "	1本	15 kg
119. "	1本	10 kg
120. "	1本	6 kg
121. スパイク	4本	30 kg
122. "	4本	22 kg
123. "	4本	15 kg
124. "	4本	10 kg
125. "	4本	6 kg
126. 山型ペーシ	1本	30 kg
127. "	1本	22 kg
128. "	1本	15 kg
129. 平ペーシ	1本	22 kg
130. 平溝付ペーシ	1本	15 kg

品名	数量	備考
131. 平溝付ペーシ	1本	10 kg
132. モール	4本	30 kg
133. "	4本	22 kg
134. "	4本	15 kg
135. "	4本	6 kg
136. 電気雷管	4ケ	
137. MSD段発電気雷管	1式	
138. DSD段発電気雷管	1式	
139. テスター	3ケ	
140. 30 発掛発破器	1ケ	
141. 50 発掛発破器	1ケ	
142. 100 発掛発破器	1ケ	
143. 新銷安ダイナマイト	3ケ	模造品
144. 1号特梅ダイナマイト	6ケ	(大小)
145. 2号銷安爆薬	3ケ	
146. 5号銷安爆薬	3ケ	
147. 新桐ダイナマイト	6ケ	(大小)
148. 白梅ダイナマイト	3ケ	
149. 手袋	2足	布製
150. 脚半	1足	
151. ピッケル	1本	
152. 坑内帽	1ケ	鉄製
153. 地下足袋	1足	
154. わらじ	1足	
155. 足半	1足	
156. 坑内作業着	1着	

品名	数量	備考
157. 救護隊用帽子	1ケ	布製
158. 坑内帽	10ケ	布製
159. 測風計	2ケ	
160. 測風計	1ケ	電気
161. メガー	1台	
162. 直流電流計	1ケ	
163. 直流電圧計	1ケ	
164. 温度記録計	1ケ	
165. ボンド試験器	1ケ	
166. 自己電力計	1ケ	
167. カタ寒暖計	5ケ	
168. 寒暖計竹ケース	2ケ	
169. ピトー管	1ケ	
170. COマスク	5ケ	
171. ガス分析器	1ケ	
172. CO検知器	3ケ	
173. 精密ガス検定器	4ケ	
174. 電線ケーブル見本	1ケ	
175. 坑内排水管内掃除器	1ケ	
176. 電話器	2台	磁石式
177. ハンデルガス分析器	1式	
178. ビクトリックジョイント	1ケ	8吋
179. "	1ケ	6吋
180. "	1ケ	4吋
181. "	1ケ	2吋
182. "	1ケ	1吋

品名	数量	備考
183. 電灯カバー	1ケ	
184. チェンホイール	1ケ	
185. ローラーチェン	1ケ	
186. レバーブロック	1ケ	1.5 ㍎
187. 坑内電車用警鐘	1ケ	
188. 道中コロ	1ケ	
189. 金平糖コロ	1ケ	
180. ルーフボルト	1本	1.7 m
191. 就業伝票外	1式	
192. 入昇坑用スタンプ	1式	
193. 炭票	1式	
194. 全国炭鉱保安表彰記念楯	2ケ	
195. 中国炭鉱技術会表彰記念楯	1ケ	
196. 足踏式吹子	1台	
197. レッグ	1台	ジャックハンマー用の脚
198. 水圧鉄柱	3本	
199. 上向穿孔機	1台	
200. ワイヤロープ	3箱	見本
201. ジャックハンマーのみ	3本	
202. オーガーのみ	2本	
203. コールピック	1台	
204. オーガー	2台	
205. ジャックハンマー	2台	
206. ロープカッター	1ケ	
207. カップ	3本	
208. 摩擦鉄柱	2本	

品名	数量	備考
209. 豆炭アンカ	1ケ	
210. 煉炭用風呂沸器	1ケ	
211. 宇部バスボイラー	1ケ	
212. 宇部バスボイラー模型	1ケ	煉炭風呂
213. 堀こたつ用燃焼器	1ケ	
214. 煉炭火鉢	1ケ	
215. 沖の山炭	2袋	
216. 若山炭	2袋	
217. ブリケット	3袋	
218. 煉炭	3包	大
219. 煉炭	3包	小
220. 辞令	6枚	古文書
221. 表彰状辞令	4枚	
222. 機関手手帳	1冊	
223. 国民労務手帳	1冊	
224. 宇部鉱業案内図	1枚	
225. 最新日本石炭鉱業全図	1枚	
226. 石油ランプ	1ケ	
227. 油絵	10枚	
228. デッサン	1枚	
229. 宇部市民誓文五則額	1枚	
230. 写真	112	パネル 83
231. 人形	1体	救護隊員
232. "	1体	昭和保安係
233. "	1体	昭和初期採炭夫
234. "	1体	薄層採炭風景

品名	数量	備考
235. 人形	1体	大正時代坑内夫
236. "	1体	明治時代先山
237. "	1体	明治時代後山
238. "	1体	番子
239. "	1体	南蛮車端取
240. "	3体	南蛮車押
241. "	1体	カグリ模型人形
242. "	1体	大正時代選炭婦
243. チプラー模型	1台	
244. セメント製造工程模型	1台	
245. 石炭ガス化当時の硫酸製造工程模型	1台	
246. 立坑櫓の模型	1台	木製
247. "	1台	鉄製
248. 石炭運搬船模型	1台	
249. 立坑カゴ	1台	
250. 蒸棒模型	1台	
251. アサガオ模型	1台	
252. カグリ模型	1台	
253. 常盤湖水深模型	1台	
254. 常盤湖平面図	1ケ	
255. ヒアカシ	6ケ	カンテラ下げ
256. スバイキヌキ	1ケ	
257. 頭斧	1ケ	
258. 仕繰ヨキ	3ケ	
259. 選炭ツルハシ	1ケ	
260. パッチ	1ケ	

品名	数量	備考
261. 造り鋸	1ケ	
262. 枠廻し	3ケ	
263. 改良ツルハシ穂先	2ケ	
264. 改良ホリ穂先	3ケ	
265. 金敷	1ケ	
266. 珪化木	1ケ	
267. 蒸気ポンプ模型	1台	
268. 一斗マス	1ケ	
269. 漏風試験器	1ケ	
270. 電気発破器	1ケ	
271. 救護班バッチ	64ケ	
272. 幻灯スライド	185ケ	
273. 漏風試験器用発煙管	3ケ	
274. 酸素検知器	2ケ	
275. 炭鉱関係録音テープ	4ケ	
276. ノーベルフォン	1ケ	
277. 地電圧計	1ケ	
278. 保安優良炭鉱商工大臣看板	1枚	
279. 秋吉台周辺化石図集他	3冊	本
280. 躍新の宇部	1冊	本
281. 炭鉱離職求職手帳	2冊	
282. 宇部石炭支局表札	2ケ	
283. 松浜炭鉱坑内外図面	9枚	
284. 銀製キセル	2ケ	
285. 坑道	3冊	本
286. 宇部鉱業所東見初炭鉱職員組合規約協定書	3冊	

品 名	数 量	備 考
287. 鉄柱カップ専用ハンマー	4 ケ	
288. 梶工業所からの化石	3 ケ	
289. ロックビット	2 ケ	
290. 大嶺炭田史	1 冊	
291. 炭塵とともに	1 冊	
292. 山口炭田 300 年史	1 冊	
293. 団史	1 冊	石炭鉱業合理化事業団
294. 炭坑保安に関する書籍	8 冊	
295. 大正時代使用煙草盆	1 ケ	
296. 産炭地域振興事業団 10 年史	1 冊	
297. 東見初電車坑道等の写真	5 枚	
298. 手搔き	3 ケ	
299. 炭坑離職者記録フィルム	1 ケ	
300. 1 厘 銭	1 ケ	
301. 年報	3 冊	石炭鉱業合理化事業団
302. 金券	2 ケ	炭坑用
303. 石炭支局庁金看板	1 枚	
304. 勅諭	1 ケ	
305. 常盤溜井の略図	1 ケ	パネル
306. 常盤池航空写真	1 ケ	パネル
307. 常盤池写真	1 ケ	昭和 4 年パネル
308. 鉱山借区図面	1 ケ	パネル
309. 宇部石炭鉱業連盟表札	1 ケ	
310. 石炭サンプル	14 ケ	外国炭
311. 算盤	1 ケ	
312. 楯と表彰状	2 ケ	

[illegible]

モデル炭坑（坑内）

[illegible]

人形携帶展示資料

品名	数量	備考
1. エブ	1 ケ	
2. 名札	5 ケ	
3. メゴ	3 ケ	
4. ノコ	1 ケ	
5. カンテラ	1 ケ	
6. ヒアカシ	1 ケ	
7. 改良ツルハシ	1 ケ	
8. 改良ツルハシ穂先	2 ケ	
9. 仕繰ヨキ	1 ケ	
10. 救護用具	1 式	
11. キャップランプ	6 ケ	
12. ヘルメット	5 ケ	
13. ピッケル	1 ケ	
14. 坑内帽	1 ケ	
15. コールピック	1 ケ	
小計	31 点	
展望台		
1. 周防灘開発予想図	1 枚	
2. 展望写真	8 枚	
小計	9 枚	

屋外展示場

倉庫内資料

石炭記念館建設委員会

品名	数量	備考
1. 水平人車	1台	12人乗軌道付き
2. 6 $\frac{1}{2}$ ディーゼルロコ	1台	軌道付き
3. 2 $\frac{1}{2}$ 鉄製炭車	3台	
4. 捲揚機	1台	300HP
5. ランカシャボイラー	1台	
6. 矢弦	1台	40 $\frac{1}{2}$ mロープ5m付き
小計	8点	
書庫室		
1. 書籍	89冊	
2. 写真帳	13冊	
3. 額入写真	29ヶ	
4. 額入表彰状	2枚	
5. 表彰状	30枚	
6. 原画	3枚	写真
7. ネガ	12枚	
8. 炭坑分布の基礎図面	1枚	
小計	179点	

品名	数量	備考
1. 改良ツルハシ穂先	7ヶ	
2. ツルハシ	2ヶ	穂先
3. ペーシ	6ヶ	
4. カキ板	1ヶ	
5. ガンジメ	1ヶ	
6. 天地車	5ヶ	
7. ケージ籠	1ヶ	
8. ケーブル線	1ヶ	9m
9. 表彰状額入	1ヶ	
10. ナイロン風管	1ヶ	
小計	26点	
追加展示資料品目		
1. タスキ	1本	
2. 山一鉱標札	1ヶ	茨城県向洋炭鉱
3. 携帯用ガス自動警報器	1ヶ	
4. 誘導無線電話器	1ヶ	
5. その他	32ヶ	
小計	36点	
展示資料総合計		3,453点

設立 昭和44年1月11日
解散 昭和45年12月3日

顧問	橋本正之	山口県知事
〃	中安閑一	宇部興産 株 社長
〃	二木謙吾	参議院議員
代表	西田竹一	宇部市長
〃	末山正顕	宇部商工会議所会頭
実行委員長	松本佐一	宇部商工会議所副会頭
募金部会部長	元永友助	日興石油 株 社長
〃 副部長	藤井孝明	株 ウベニチ新聞社社長
〃 〃	村上誠	宇部市事務協力団体連合会長
資料部会部長	中安信丸	大明炭鉱 株 社長、宇部興産 株 専務
〃 副部長	脇 昂	株 宇部時報社社長
〃 〃	上田彰	宇部石炭支部産炭地域振興課長
監査	浜野善市	萩森興産 株 社長
〃	藤野哲	株 山口銀行取締役宇部支店長
事務局長	北原一夫	宇部市助役
実行委員	村田四郎	宇部市議会議長
〃	古谷博美	新光産業 株 社長
〃	片岡辰市	若山産業 株 社長
〃	篠崎久治	沖宇部炭鉱 株 社長
〃	白川敏夫	東神炭鉱 株 社長
〃	柏村嘉雄	セントラル硝子 株 取締役、宇部ソーダ工場長
〃	新田圭二	宇部市議会副議長

実 行 委 員	村 田 隆 介	宇部興産 ㈱本社庶務部長
〃	弘 長 務	宇部商工会議所専務理事
〃	近 藤 義 久	山口石炭鉱業会理事長
〃	佐 貫 一 夫	宇部市議会議員
〃	木 下 実 之	宇部市建設局長
委 員	寿 岡 良	宇部石炭支局長
〃	俵 田 寛 夫	宇部興産 ㈱専務
〃	美 安 利 一	宇部化学工業 ㈱社長
〃	湊 守 生	山口県議会議員
〃	潮 村 浪 雄	榎山炭鉱 ㈱社長
〃	山 田 高	親和興産 ㈱社長
〃	原 要	協和ケミカルズ ㈱宇部工場事務部長
〃	藤 原 義 明	大成工業 ㈱専務取締役宇部支店長
〃	木 幡 嘉 市	日本通運 ㈱宇部支店長
〃	塔 野 勝 義	大塔興産 ㈱社長
〃	山 田 正 明	宇部青年会議所理事長
〃	末 広 薫 夫	㈱末広書店社長
〃	大 関 文 雄	大関食品店
〃	弘 中 定 一	いろは旅館
〃	田 中 八重子	宇部市連合婦人会会長
〃	恵 羅 大 典	宇部市教育長
〃	西 村 信 義	宇部市経済局長

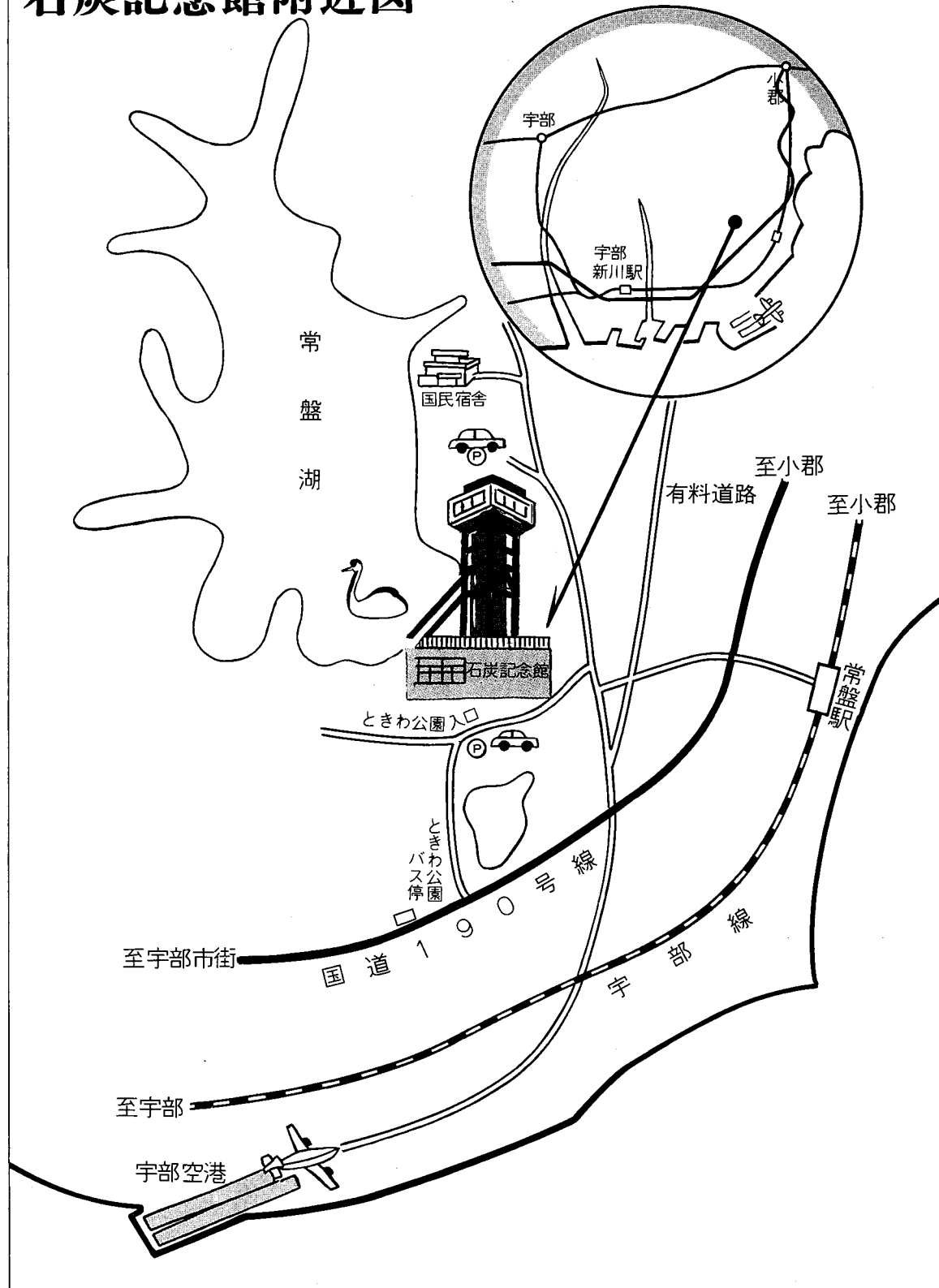
石炭記念館運営委員会

設 立 昭和45年 2 月 1 日

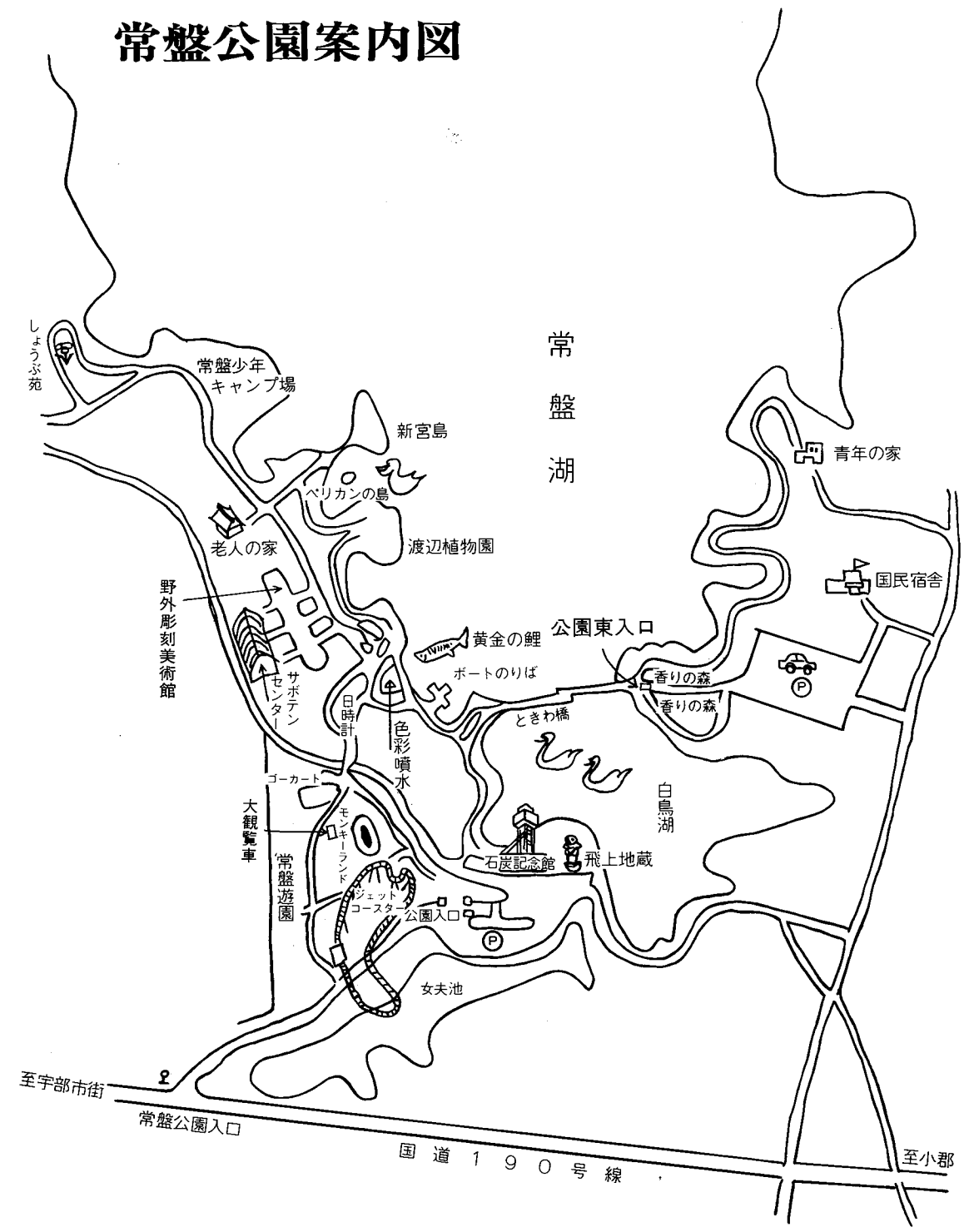
委 員 長	松 本 佐 一	宇部商工会議所顧問・宇部市観光協会副会長
副 委 員 長	寺 岡 知 行	宇部興産株式会社石炭監理部部長
委 員	原 恒 秋	宇部市助役
〃	秋 本 謙 吾	宇部市議会議員
〃	内 田 茂 夫	宇部時報社長
〃	藤 井 孝 明	ウベニチ新聞社長
〃	寿 岡 良	宇部商工会議所専務理事
〃	長谷川 義 彦	宇部市教育長
〃	清 水 和 夫	宇部市経済部長
〃	池 田 房 市	宇部市商工観光課長
〃	笹 田 成 夫	宇部市公園緑地課長
〃	北 山 静 雄	常盤遊園協会常務理事（事務局）

（注） 昭和52年11月現在

石炭記念館附近図



常盤公園案内図



昭和52年11月30日 発行
宇部市北則貞（常盤公園）

宇部市常盤遊園協会内
(0836) 21 - 3541

石炭記念館運営委員会
(0836) 31 - 5281

宇部市観光協会
(0836) 31 - 4111

発行・条例出版株式会社